

1 学校教育目標

自ら学び向上し合う生徒 心豊かで協力し合う生徒 健やかでたくましい生徒

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・向学の精神に満ちた学校 ・礼儀と豊かな心を育む学校 ・夢や志をもち、主体的に自分の進路を切り開く生徒を育む学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ楽しさを知り、主体的に学習に取り組む生徒 ・他人を思いやり、礼儀正しい生徒 ・夢や志をもち、実現に向けて根気強く努力する生徒
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯を通じて学び続ける意欲のある教師 ・生徒のよさや可能性を引き出し伸ばすことができる教師 ・指導力や教科等の専門性を高め、主体的な学びを支援する教師 ・保護者や地域、関係諸機関との連携を図り、生徒の健全育成に努める教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

本校の重点取組事項である「学力向上」では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」という観点から、ICT機器を活用し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めている。令和6年度区学力調査の結果では、平均通過率（全体）で区平均を回り、昨年度を上回る結果となった。継続した学力向上の取組が成果としてあらわれた結果となった。ICT機器を「思考や表現のツール」として活用し、基礎学力の定着と主体的な学習による課題解決型の授業を取り入れ、学力向上を図っていく。「自分には良いところがある」と肯定的に回答した生徒は58%であった。ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、すべての生徒にとって安心して学べる、居場所のある学校づくりを行っていく。

【前年度の成果】

- 生徒アンケートによると「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした生徒が88%であった。
- 生徒アンケートによると「自分には良いところがある」の質問に肯定的な回答をした生徒が58%であった。
- 生徒アンケートによると「授業はわかりやすいか」の質問に肯定的な回答が80%を超えた教科は全教科、90%を超えた教科が8教科であった。

【前年度の課題】

- 家庭学習習慣や学習に主体的に取り組む態度が十分に身に付いていない。
- 生徒がタブレット端末を活用して調べたり、他の生徒の意見・考えを参考にして自分の考えを整理したり、発表したりする授業改善が課題。
- コミュニケーション能力が十分に身に付いていない。
- 読書する習慣が身に付いていない。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R：令和				
		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	キャリア教育の充実	○	○	○	○	○
3	人権教育の推進		○	○	○	○

5 令和7年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
区学力調査の目標値通過率の維持と向上		令和7年度調査 3科平均75%		令和7年度調査 3科平均73.5%		達成基準を1.5ポイント下回ったが、課題であった英語が向上した。		△	
B 目標実現に向けた取組み									
新規・継続	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 新規	授業の充実	全学年 全教科	全授業	・年間計画に基づいた単元で課題解決学習を実施 ・教員相互の授業観察・評価	生徒に年2回 (7月・12月) 授業アンケートを実施する。	各教科「グループ活動を通して自分から積極的に発言したり、みんなで意見を出し合ったりすることができる」と肯定的回答をした生の割合70%以上	第1回 1学年77% 2学年72% 3学年71% 全学年73% 第2回 1学年73% 2学年84% 3学年86% 全学年81%	第2回では、2年生、3年生はポイントが上がったが、1年生は下がった。全学年では8ポイント上がり、達成目標を上回った。	○

2 継続	放課後補充 教室 (熱血!花 保塾)	全学年 5教科	月・火・ 木・金 15:20 ~16:00	【指導体制】学年教員・5教科 の教科担任 【取り組み内容、ねらい】授業 中に分からなかったことの質 問の場とする。また、朝学週確 認テスト未実施者や自主学习 ノートなどの宿題の未提出者 を対象とした指導の場とする。 【使用教材】各教科のノート・ プリント・ワーク	課題の完成や 分からなかつ た問題の理解 により、達成 とする。	生徒の課題達 成率 80%を目 指す。	復習や課題の完成に 役立ったと回答した 生徒の割合 84%	達成目標を上回っ た。3学年では受験に 向けた取組も実施し た。	○
3 新規	AI ドリル活 用	全学年 5教科	火～金曜 日 始業前 15 分	【指導体制】担任・国語科・ 数学科・英語科・社会科・ 理科 【取り組み内容・ねらい】 毎朝、学習内容の復習・確 認を行い、基礎学力の定着 を図る。	Qubena 活利リ ポート	週に1回以上利 用した生徒の 割合 50%以上	週に1回以上利用し た生徒の割合 52.9%	達成目標を上回っ た。年度当初の計画 に基づき実施でき た。	○
			通年	タブレット端末を家庭に 持ち帰らせ、課題に取り 組ませる。			週に1回以上利用し た生徒の割合 50.9%	達成目標を上回っ た。生徒のタブレッ ト活用率を高め、家 庭学習を定着させ ていく。	○
4 継続	夏季補充教 室	全学年 数・英で補 習の必要な 生徒を選出 各学年約 15 名程度	7月22日 ~28日(5 日間) 各教科 50分	【指導体制】担任・教科担任・ 学年担当教員・学習支援ボラン ティア 【取り組み内容、ねらい】当該 年度の前半期の内容でつま ずきを解消する。少人数指導を行 う。主に4月からの内容の補充 問題を行う。【使用教材】プリ ント教材・ワーク等	振り返りアン ケート	一人一人が課 題目標を達成 したと回答し た生徒 80%以 上	課題目標を達成し たと回答した生徒の割 合 75%	「課題を終わらせ る」ことを目標にし た生徒が達成できな いと回答している。	△

重点的な取組事項－2		キャリア教育の充実		
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自分の将来についてより明確かつ具体的 な目標を定め、前向きな学校生活を送るこ とができるようにする。	生徒アンケートで肯定的評価 80%以 上	「進路学習を通して、将来の夢や 希望をもつことができた」と肯定 的的回答をした生徒の割合 60%	学ぶことと自己の将来 とのつながりを見通し た取組を行っていく。	△

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
体験活動	生徒アンケートで肯定的評価 80%以上	全学年全生徒を対象にした職業講話(花保未来ラボ)や職業調べ、職業体験を実施し、働くことへの理解と意欲の向上を図る。	「進路学習を通して、将来の夢や希望をもつことができた」と肯定的回答をした生徒の割合 60%	3年間を見通し、振り返りながら将来の生き方を考える活動を行っている。	△
ボランティアマインド	生徒アンケートで肯定的評価 70%以上	地域などの行事にボランティアとして活動することで地域への帰属意識を高める。	「今住んでいる地域に貢献できる大人になりたい」と肯定的回答をした生徒の割合 71%	達成基準を上回った。ボランティア活動の参加率が課題である。	○
学校行事	生徒アンケートで肯定的評価 80%以上	魚沼自然教室、修学旅行、運動会、文化祭などの学校行事を通して、主体的な活動への意欲と、目標をもって取り組む姿勢をもたせる。	「学校行事などに積極的に参加している」と肯定的回答をした生徒の割合 85%	達成基準を上回った。生徒が主体となる行事を行っている。	○

重点的な取組事項－3		人権教育の推進			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
他者への共感や思いやりをもち、居心地のいい学校・学級づくり	2回目のWEBQUで学級生活満足群の全国値を全クラス上回る。	2回目の調査で9クラス中8クラスが全国値を上回った。	2回目の調査では、全国平均を11.4%上回った。全クラス全国値を上回ることを目指す。	△	
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
ユニバーサルデザインを取り入れた授業	生徒アンケートで授業について肯定的評価 85%以上	授業の焦点化・視覚化・共有化の3つの視点を取り入れた授業を実施する。	「授業の内容はよく分かる」と肯定的回答をした生徒の割合 85%	達成基準を上回った。達成していない教科があり、課題である。	○
ポジティブな行動支援の取組	生徒アンケートで自己肯定感について肯定評価 60%以上	ポジティブな行動支援の取組を充実させることで、自己肯定感を高める。	「自分には良いところがある」と肯定的回答をした生徒の割合 67%	達成基準を上回ったが、取組に改善・工夫が必要である。	○

多様性の理解	生徒アンケートで肯定的評価 80%以上	1 年次車いす体験、2 年次認知症サポーター養成講座、3 年次高齢者声掛け訓練を実施する。これらの体験を通じて、障がい者や介護に関する理解を深め、心のバリアフリーを浸透させる。	「体験を通して理解を深めることができた」と肯定的回答をした生徒の割合 98%	達成規準を上回った。物理的なバリアフリーだけでなく心のバリアフリーを学ぶ機会となった。	◎
--------	---------------------	--	--	---	---

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

区の学力調査の結果では、3 科平均で区通過率を上回った。学力調査の分析から誤答分析を行い、授業内での補習や補充教室等を実施し、学力の定着と向上に向けて丁寧な指導を実施し成果を上げていく。A I ドリルをはじめ、授業内の I C T 機器の活用を推進し、生徒がタブレットを活用して意見を共有したり、発表したり、振り返りをして主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善を行っていく。

キャリア教育では、全学年実施の花保未来ラボ（職業人による講話）、2 年生の職場体験を実施することができた。花保未来ラボでは、生徒が興味関心を高め、将来の職業選択の一助となるよう幅広い職業人を講師として招聘した。また、3 年生向けに高校の先生を講師としたマナー講習や主に地域の方を面接官とした面接練習を実施した。次年度以降も生徒が主体的に進路・職業選択ができる進路指導を学校運営協議会と連携して実施していく。人権教育については、地域のお祭りや行事に本校の生徒がボランティアとして活動する機会が増えた。地域に貢献できる生徒の育成を図っていくためにも、ボランティア活動を全校生徒に広めていきたい。また、自他ともに大切に作る心を、特別の教科道德等を通じて育て、「安心で居場所のある学校」を目指していく。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

コミュニティ・スクールの指定を受けて5 年目となりました。今年度、花保フェスタでは開かれた学校づくり協議会を中心に、P T A 役員、保護者の方々に協力していただき、多くの地域の方にお越しいただきました。ボランティア部では、地域の方が校内菜園の講師として指導していただいています。また、週 1 日、昼休みの居場所づくりの部屋の開室、放課後に自習教室を開催しています。コミュニティ・スクール指定校としての強みを生かし、「地域に根差した学校」として歩みを進めています。

学習活動においては、I C T 機器を「思考のツール」として効果的に活用した授業、生徒主体の授業を実践し、確かな学力の向上へ繋げていきます。生徒一人一人の能力や可能性が発揮できる教育活動を行っていきます。保護者の皆様、地域の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

(3) その他（学校教育活動全般について）

本校は、「自立と貢献」を掲げて教育活動を行っています。そのために、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業、すべての生徒にとって分かる授業を行っていきます。安心して学べる教室、居場所のある教室を作り、学校環境を整えていきます。本校の生徒は、「自分には良いところがある」と肯定的回答した生徒は昨年度よりは増えましたが、足立区と比べて低い結果となっています。積極的に生徒の良いところを認めほめる指導を取り入れていきます。また、目の前の生徒としっかりと対話し、教育活動を行っていきます。学校は人を育てる場であり、一人一人の可能性を伸ばす場です。保護者・地域の方と連携してお子様の成長を支援し、教育活動を行っていきます。